

ベトナム・トゥアティエンフエ省における工芸村の現状

—ルーラルツーリズムの展開に向けて—

筒井 一伸*・ハー ヴァン ハイヌ**・ブイ ティ トウ**

Report on the Condition of Craft Villages in Thua Thien Hue Province, Vietnam
: From the Perspective of Rural Tourism Development

TSUTSUI Kazunobu*, Ha Van Hanh** and Bui Thi Thu**

キーワード：工芸村，農村，ルーラルツーリズム，フエ，ベトナム

Key Words: craft village, rural area, rural tourism, Hue, Vietnam

I. はじめに

1986年のドイモイ政策を端緒として、ベトナムは計画経済から市場経済へと大きく体制を変化させ、とりわけ90年代中葉以降はASEAN・APEC加盟など、グローバル化と地域統合の大きな流れに合流してきた。このような状況の下、南部、中部、北部の地域間格差だけではなく、都市-農村格差も顕著になってきている。とりわけ、本稿で対象とするトゥアティエンフエ省などのベトナム中部は、大規模な都市がなく全体として農村的性格を有することもあり、首都ハノイ市を抱える北部、経済都市ホーチミン市を抱える南部に比べて経済発展は遅れをとってきた。しかし2000年代に入り、農村の「近代化 (Hiện đại hóa)」, 「工業化 (Công nghiệp hóa)」というスローガンの下で農村発展政策の展開がなされ、近年では「持続可能な発展 (Phát triển bền vững)」への関心の高まりもあり、地域資源を活かした地域経済のけん引役として工芸村 (Làng nghề) の成長が期待をされている。工芸は農村における工業化、近代化過程における経済機構の変革に重要な役割を担い、また農村内経済格差の解消にも資するものとされている (Bộ Tài nguyên và Môi trường, 2008, p.xix)。

ベトナムにおける工芸村の調査研究については90年代後半より進められてきた。日本が関わった大規模なものとしては、独立行政法人国際協力機構 (JICA) とベトナムの農業農村発展省 (MARD) により2002年から2004年にわたって実施された「ベトナム国地場産業振興計画調査」があり、最終報告書はJICA・MARD (2004) として公表されている。また植田ほか (2000・2001) は、北部の紅河デルタに位置するニンビン省における「ベトナム工芸村」の設立計画の報告を行っている。近年ではHoàng Văn Châu et al. (2007) やVu Nam (2009) など、観光との関係で工芸村の意義を検討する研究がみられる。しかしながらこれらの調査研究は、北部の工芸村を検討したものがほとんどであり、本稿でとりあげるトゥアティエンフエ省を事例としたものは管見の限り皆無である。JICA・MARD (2004) では北部、中部、南部から10省をパイロット事業のモデル省として選定しているがそこにもトゥアティエンフエ省は含まれていない。そこで本稿では、トゥアティエンフエ省における工芸村の現状について、現地調査の結果をもとに報告を行う。

*鳥取大学地域学部地域政策学科

**フエ大学 フエ科学大学地理地質学部

II. ベトナム農村の現況

ベトナム社会主義共和国は東南アジアの北端、インドシナ半島の東側に位置し、国土は南北約1,650km、東西約600kmの細長いS字型をなす(図1)。国土の面積は329,241km²であり、九州を除いた日本の面積に相当する。中国、ラオス国境には山岳地帯が広がり、一方、北部のホン川(紅河)の形成した紅河デルタおよび南部のメコン川が形成したメコンデルタを中心に米作がさかんである。人口は世界第13位の規模であり約86.8百万人、そのうち農村住民が約70.4%を占めている(2009年)。

労働者人口でみると43.8百万人のうち農村の労働者人口は31.9百万人で約73%を占める。農村における労働者人口は大きな比率を占めているが、専門技術の養成を受けた労働者の比率は必ずしも高くない。15歳以上の労働者で専門技術の養成を受けた者の割合は、都市部では約24%であるのに対して農村部では約8%である(Ban Chi đạo Tổng điều tra dân số và nhà ở Trung ương, 2009)。前述のとおり都市と農村との経済格差は大きな問題となっているが、一方で農村内での貧富の格差も広がりつつある。農村における2008年の平均年間収入は1.6千万ドン(2008年の為替レートで約83,000円、2010年の為替レートで約68,000円)であるが、10%の富裕層と10%の最貧層との収入格差が13.5倍であり、格差は広がる傾向にある。農村では貧困世帯が約16%を占めている(2008年)。

近年、農村における経済活動が農林漁業から工業やサービス業に重心を移しはじめているが、その変化は必ずしも大きいものではない。2001年から2007年の間に農業従事者が工業従事者にかわった比率は2%にとどまっておき、農村における域内総生産の約68%を農業が占めることから、ベトナム農村の主要産業は現在もなお農業であるといえる。主要な産物は生産量、輸出量ともにブラジルに次ぐ世界第2位(2008年)を誇るコーヒーや輸出量がタイに次ぐ第2位の米、そのほか胡椒、茶、天然ゴムなどの商品作物が世界の市場に受け入れられている。しかし、ベトナム農業は競争力や効率性においてタイとフィリピンより低いとされている(Bùi Xuân Nhân, 2009)。

III. ベトナムにおける工芸村

1. 工芸村に関する概念整理

ベトナムにおける工芸村(Làng nghề)とは、Nghè(ゲー:工芸)とLàng(ラン:村)という2つの要素によって定義された農村の地理的空間であり、多くの世帯が生業として工芸に従事する村である。ここではまず、工芸村の「村」にあたるLàngの概念について整理をしておきたい。

Làngとは農村の住民集団であり、生業を推進し、生活を支える基礎単位であるとする(Hoàng Văn Châu et al., 2007, p.10)。そもそもベトナムの行政制度(図2)において農村の行政村はxã(サー:社)

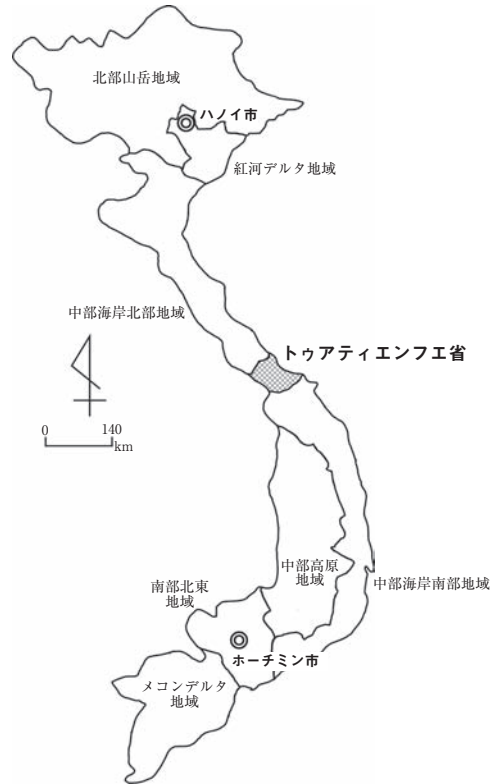


図1 トウアティエンフエ省の位置
筆者作成。

と呼ばれ、日本の市町村の単位に相当する。しかしながら日本の集落、部落、ムラといった概念と同様にベトナムにおいても、この xã より下位にある空間概念がある。現在の xã は 1945 年の 8 月革命以降に設立されたもの（宮沢，2000，p.271）で、それ以前の xã（旧 xã）は thôn（トン：村）として xã より下位の基礎的単位として存続していることが多く、また集団農業時代の合作社（hợp tác xã）と一致する場合もある（宮沢，2000，p.275）。thôn の下位には、一定地域に集住する諸家族が地縁集団（部落，集落）として形成される。ベトナム北部では xóm（ソム），南部では ấp（アップ：邑）と呼ばれ、集団農業時代には生産隊（đội sản xuất）として生産基礎単位でもあった。xóm をはじめとする諸集団が統合したものを Làng と呼び、自然村に相当する。現在の Làng の集団性は地域によって大きく異なっており、Làng が堅持されている地域と、実態としての Làng は既に崩壊して xóm だけが残っている場合もある（桜井，1999，pp.20-21）^{注1）}。

従って現在、Làng と呼ばれるものは一般的に図 2 のような行政制度やその下位にある空間概念として確立しているものではなく、何らかの定義がなされた「村」ないしは「ムラ」を指し示すものではない。むしろ、「村落的なるもの」を表象する言葉として理解されるものである。

一方、工芸村（Làng nghề）は Hoàng Văn Châu et al.（2007）によると次のように定義される。農村の住民集団であり、職業と生活を含有する基礎単位と定義される Làng は通常、農業と小規模牧畜に依存しており、農閑期に入るとさまざまな需要に応じるために、各家族が持つ技術を活かした手工芸が発達する。そのちに手工芸生産物に対する需要は数量も質も高まっていくため、農業から分離して工芸品生産に専門化していく。一定の段階に達すると、手工芸は Làng の経済システムにおける重要な比率を占めるようになり、工芸村が出現するのである（Hoàng Văn Châu et al., 2007,p.10）。

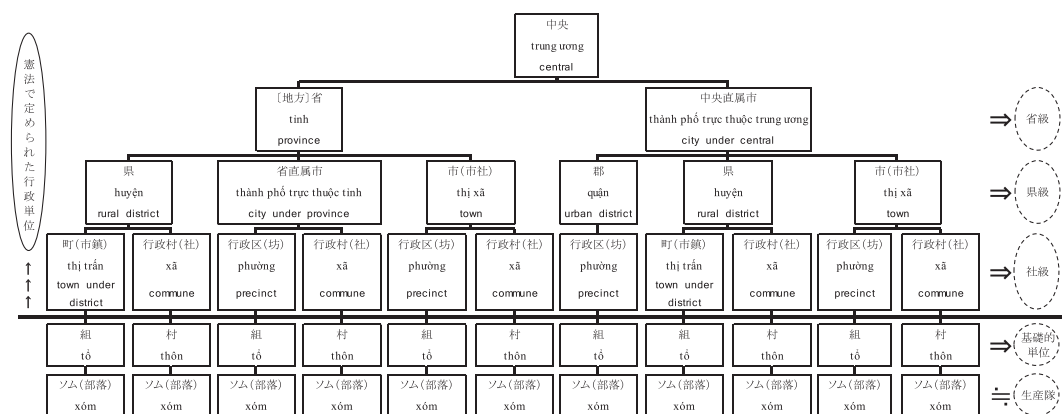


図 2 ベトナムの行政単位

資料：桜井（1999）、白石（2000）、宮沢（2000）を参考に筆者作成。

具体的な工芸村の定義は農業農村発展省によって決められている（JICA・MARD，2004）。それによると、工芸村は農村部に位置する居住単位を指し、

1. 手工業が主な生活の収入源となっている。
2. 30%以上の世帯又は労働者が工芸活動に従事している。
3. 地元政府によって監督や政策の実施を保証されている。

という要件を満たすものとされる。ここで注意をしたいのは、工芸村のすべてが長い歴史を持って

いるわけではなく、相応の歴史を持ったものは「伝統工芸村」と別に定義される点である。伝統工芸村は工芸村のうち、

1. 伝統工芸品が19世紀初頭以前より存在する。
2. その工芸品に特徴があり、多くの人々に広く認知されている。

ことが要件となる。

ただし、省によっては農業農村発展省の定義とは異なる定義を持つ省もあり、本稿でとりあげるトゥアティエンフエ省においても、後述する通り上記の定義とは異なるものである。なお、伝統工芸村に含まれない工芸村は「新工芸村」と称されることもあり、海外貿易志向の企業などが中心の工芸村などが相当する (Bộ Tài nguyên và Môi trường, 2008, p.4)。

2. 工芸村の実態

では、ベトナムにはどのくらい工芸村が存在するのであろうか。工芸村に関わらずベトナム農村における情報は不十分であり、また体系だったものも少ない。そうしたなかで JICA・MARD (2004) ではその調査に先立って、既存の工芸村の把握状況を整理している。それによると1998-99年に農業農村発展省が工芸村の所在地や工芸品目等のリストアップをおこなっており、その数は合計610村(食品加工を除く)にのぼる。2001年には、1998-99年調査と同じ主旨で調査が行われたがリストアップされた工芸村の数は469村(伝統工芸村264・新工芸村446)に減少していた。これに対して、JICA・MARD (2004) では、2002年に実施した調査の結果から2,017の工芸村がベトナムに存在することを明らかにしており、2008年現在では2,790の工芸村が存在するとされる^{注2)}。

次にベトナムにおける工芸村の地理的分布を確認しておこう。JICA・MARD (2004) によると紅河デルタ地域に866村(42.9%)と最も多く分布しており、ついで中部海岸北部地域が314村(15.6%)、北部山岳地域の北西地域が247村(12.2%)、メコンデルタ地域が211村(10.1%)などとなっている。有名な工芸村は主として北部を中心に分布しており、ハノイ市近郊の陶器のバッチャン (Bát Tràng) 工芸村や絹織物のヴァンフック (Vạn Phúc) 工芸村などはよく知られている。

ところで2006年11月にWTOに加入してからは工芸村が急速な発展をみている。工芸村の製品の種類が豊富になり、製品の輸出市場が100か国以上に広がっており、例えば前述のバッチャン工芸村などでは日本への輸出も盛んである。工芸村の発展は結果として農村の経済構造の変化をもたらしつつある。当該地域における農業の地位を低下させ、工業とサービス業の地位を引き上げた。これらの村では平均収入が他の村(純農業村)と比べて高く、1人あたりの月収入は60万ドンから150万ドン(2010年の為替レートで約2,500円から6,300円)、輸出額も年間7億米ドルにも及ぶ。一方で、ベトナムにおける工芸村では多くの問題も生じている。例えば、約70%もの生産主体が資金不足に悩んでおり、また、労働者の技能レベルの不統一、商品名(商号)の未確立、品質の不統一(30%製品が良質、40%製品の中質、残りの30%製品は不良品とされる)などの問題がある(Phạm Vũ Dũng, 2009, p.45)。2009年3月までに9つの工芸村が生産を中止し、また124の工芸村が生産しているが効果がでないとの調査結果もある(Lưu Duy Dần, 2009, p.18)。

このような問題もあり、工芸村を「工芸品の生産の場」としてのみとらえるのではなく、観光資源としてとらえ、伝統工芸品、その技術、職人そしてその場所(農村空間)そのものを商品化するクラフトツーリズムへの志向が強まりつつある(Vu Nam, 2009, pp.165-157)^{注3)}。前述のバッチャン工芸村やヴァンフック工芸村などはハノイ市近郊の観光地としても有名であり、前者はVu Nam (2009)の研究事例としても取り上げられている。

III. トゥアティエンフエ省における工芸村

1. トゥアティエンフエ省の概要

トゥアティエンフエ省はベトナム中部の中部海岸北部地域に位置し、ベトナム最後の王朝グエン朝があった古都フエを有する。面積は 5,065.3 km²、人口は 115.1 千人（2007 年）で省都であるフエ市（省直属市）と 8 つの県からなり（図 3）、20 行政区、9 町と 121 行政村が属している（表 1）^{注4)}。省都のフエ市にあるグエン朝時代の宮殿や帝廟は、中国様式やフランス様式、またその折衷様式を取り入れた独特の建造物となっており、貴重な文化財として後世に継承されている。多くはベトナム戦争期に破壊されてしまったが、その戦禍をまぬがれたものは 1993 年に「フエの建造物群」として世界文化遺産に登録された。また近年、破壊された建造物の復元作業も進められている。フエ市はトゥアティエンフエ省の省都として、省内のみならずベトナム中部の政治・経済において重要な役割を果たしてきた。今後、ハノイ市やホーチミン市と同様に、省と同等の行政機能をもつ中央直属市に昇格する計画も持ち上がっている。その一方で、フエ市とそれ以外の県との経済的な省内格差が大きくなっている。フエ市から南東約 10km にあるフーバイ空港を有するフオントゥイ県には臨空型の工業団地が開発されたが、それ以外の県では工業化が進行しているわけではない。また観光資源についても、フーロック県のランコー（Lãng Cô）を中心とするビーチリゾートや、同県にあるバックマー（Bách Mã）国立公園でのエコツーリズムなどがあるものの、省全体としては必ずしも広がりが見られているわけではない。

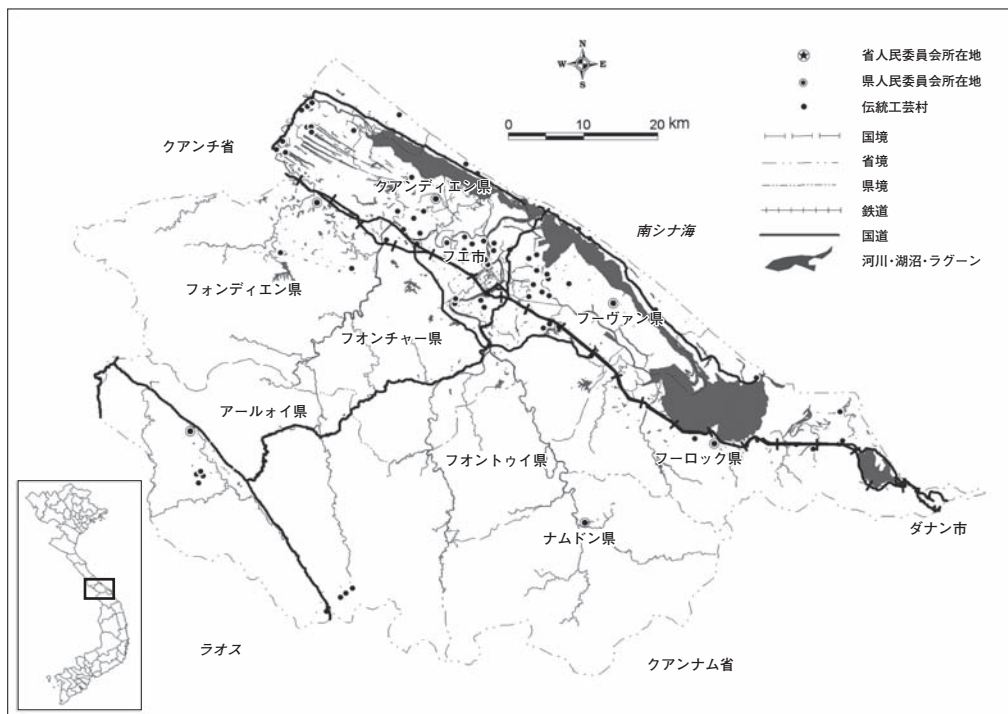


図 3 トゥアティエンフエ省各県の位置と伝統工芸村の分布

筆者作成。

表1 トゥアティエンフエ省における県別の行政単位と工芸村の状況

No	県名	行政単位数			工芸村のある行政 村数 ^(注)	工芸村 数	伝統 工芸村 数	活動状況別工芸村数			工芸村の労働人口(人)	
		行政区	町	行政村				良い	普通	悪い/ 活動停止	通年労働者	季節労働者
I	フエ市 (T.P. Huế)	20	0	5	3	3	2	2	1	0	104	100
II	フォンディエン県 (H. Phong Điền)	0	1	15	9	21	14	3	16	2	1,189	980
III	クアンディエン県 (H. Quảng Điền)	0	1	10	5	10	7	1	9	0	2,952	1,375
IV	フオンチャー県 (H. Hương Trà)	0	1	15	5	11	10	3	7	1	1,614	1,150
V	フーヴァン県 (H. Phú Vang)	0	1	19	9	13	12	3	10	0	2,440	1,215
VI	フオントゥイ県 (H. Hương Thủy)	0	1	11	5	13	7	0	13	0	816	525
VII	フーロック県 (H. Phú Lộc)	0	2	16	6	8	8	0	8	0	645	420
VIII	アールオイ県 (H. A Lưới)	0	1	20	3	9	9	0	4	5	389	105
IX	ナムドン県 (H. Nam Đông)	0	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	20	9	121	45	88	69	12	68	8	10,149	5,870

注) フエ市には行政区を1つ含む。

資料: Nguyễn Văn Kham et al. (2007) より筆者作成。

2. トゥアティエンフエ省における工芸村の定義

農業農村発展省における工芸村の定義は前述したとおりであるが、トゥアティエンフエ省における定義は多少異なっている。まず工芸村は、

1. 省の発展計画に適合する工芸製品を生産する。
2. 各工芸村の生産過程では地域生態環境や安全衛生環境を保全する。
3. 地方行政体や専門事務所の管理に同意する。

という基準を設けている (Nguyễn Văn Kham et al., 2007, p. 16)。一方、伝統工芸村は中小工業の生産活動がある工芸村であり、50年以上の長い成形過程を経た、多世代にわたって継承され、維持されてきた手工芸品を持つ。手工芸品は特徴的な性格と美術性をもっており、手工芸品名は村の地名と密接に結びついているものとされ、

1. 省の発展計画に適合する工芸製品を生産する。
2. 伝統工芸生産に従事する労働世帯数(個数)は最低30戸、かつ全村で少なくとも100人の伝統工芸に従事する労働者がいる。
3. 村の年間の総生産や総収入のうち、伝統工芸生産やその収入が10%以上を占める。
4. 地方行政体や専門事務所の管理に同意して、村の建設と社会経済の発展計画と密接に結び付ける。
5. 各工芸村の生産過程では地域生態環境や安全衛生環境を保全する。

という基準が設けられている (UBND tỉnh Thừa Thiên Huế, 2006, pp.1-3)。

3. トゥアティエンフエ省における工芸村の実態

トゥアティエンフエ省人民委員会の2007年1月の調査によると工芸村は88、そのうち伝統工芸村の数は69で全体の78.4%を占める。そもそも農業とのかかわりで農村住民の需要に応じた生活製品の生産を行ってきたが、現在では生産物が多様化しており、大きく11に分類される(表2)。最も多いのはベトナム農村でよくみかけるノンラー(nón lá)と呼ばれるすげ笠や竹編工芸品(図4)

などを生産する工芸村で35の村がある。ついで多いのは食品生産・加工の工芸村で、ブン（bún）と呼ばれる米の細麺やバインダー（bánh đa）と呼ばれるせんべい（図5）、ヌックナム（nước mắm）と呼ばれる魚醤などが18の工芸村で生産されている。さらに織物・漁網などを生産する工芸村や木工美術品の工芸村などが存在する。

工芸村は省都のフエ市には少なく、むしろ周辺の県に多くが存在する（表1）^{注5)}。最も多いのはフォンディエン県で21の工芸村、次にフーヴァン県とフオントゥイ県に13の工芸村が分布する。行政区、町、行政村レベルでみると、省全体では全体の30%の行政村で工芸村を有する。割合が最も高いのはフォンディエン県で半数を超える行政村で工芸村を有する。ただしフォンディエン県では伝統工芸村は14で工芸村全体の66.7%、フオントゥイ県にいたっては53.8%（7工芸村）に過ぎない。一方、フーロック県やアールオイ県では工芸村数そのものは多くはないが、伝統工芸村の割合が100%であり、フオンチャー県、フーヴァン県でも伝統工芸村の割合が90%以上である。工芸に従事する労働者人口では、10,149人が一年中従事し、また季節従事者も5,870人を数える。最も多いのはクアンディエン県であり、次いでフーヴァン県が多い。この2県では通年従事者が2,000人を、季節従事者を含めた合計では3,000人を超える人々が工芸に従事している。

表3は行政村別の工芸村の数や主な工芸品を示したものである。最も多い工芸村を有する行政村はフォンディエン県フォンビン村で7つの工芸村を有する。またフオントゥイ県トゥイタイン村も5つの工芸村を有する。ほとんどの行政村で伝統工芸村を有するが、8つの行政村では伝統工芸村が存在しない。主な工芸品の分布は、竹製品は多くの県で生産されている一方で、またフーロック県には食品生産や石材加工などが集まる。またアールオイ県には織物（図6）が集中する。

表2 工芸の種類による分類と工芸村数

分類番号	主要工芸品	工芸村数	比率 (%)
1	竹製品、すげ笠、箒	35	39.7
2	食品生産、食品加工	18	20.4
3	織物、漁網	11	12.5
4	木工美術品	7	7.9
5	石材加工	4	4.6
6	煉瓦、陶器	3	3.4
7	家庭用・農業用金属器具の鍛造	3	3.4
8	鋳銅	2	2.3
9	紙絵、紙花	2	2.3
10	刺繍	2	2.7
11	植物油精製	1	1.2
合計		88	100.0

資料：Nguyễn Văn Kham et al. (2007) より筆者作成。



図4 竹編工芸品の生産
（クアンディエン県クアンフー村バオラー（Bao La）
工芸村：2010年11月27日筆者撮影）



図5 せんべい（バインダー）の生産
（フオンチャー県フオンホー村ルーバオ（Lư Báo）
工芸村：2010年10月10日筆者撮影）



図6 アールオイ県の織物
（2010年5月21日筆者撮影）

表3 行政村別の工芸村数と主要工芸品

行政村名	主要工芸品 ^{注)}	工芸村数	伝統工芸村数
I フェ市 (T.P. Huế)		3	2
1. トゥイアン村 (Thùy An)	2 食品生産	1	1
2. トゥイスアン村 (Thùy Xuân)	8 鋳銅	1	1
3. フォンドウック区 (Phường Đức)	8 鋳銅	1	0
II フォンディエン県 (H. Phong Điền)		21	14
1. フォンビン村 (Phong Bình)	1 竹製品・3 織物 等	7	6
2. フォンホア村 (Phong Hòa)	4 木工美術品・6 陶器 等	4	3
3. フォンヒエン村 (Phong Hiên)	1 竹製品・7 金属器具の鍛造	2	1
4. フォンソン村 (Phong Sơn)	1 竹製品	2	1
5. フォンハイ村 (Phong Hải)	2 食品生産	1	1
6. フォンミー村 (Phong Mỹ)	2 食品生産	1	1
7. フォンスアン村 (Phong Xuân)	1 竹製品	1	0
8. ディエウフオン村 (Diên Hương)	1 竹製品	1	0
9. フォンチュオン村 (Phong Chương)	1 竹製品・7 食品生産	2	1
III クアンディエン県 (H. Quảng Điền)		10	7
1. クアンコン村 (Quảng Công)	2 食品生産	2	2
2. クアンフウー村 (Quảng Phú)	1 竹製品	3	2
3. クアンヴィン村 (Quảng Vinh)	2 食品生産・4 木工美術品	2	2
4. クアンロイ村 (Quảng Lợi)	1 竹製品	1	1
5. クアンアン村 (Quảng An)	10 刺繍	2	0
IV フォンチャー県 (H. Hương Trà)		11	10
1. フォンヴィン村 (Hương Vinh)	4 木工美術品・6 陶器 等	3	3
2. フォントアン村 (Hương Toàn)	1 竹製品・2食品生産 等	4	4
3. フォンホー村 (Hương Hồ)	2 食品生産・4 木工美術品	2	2
4. フォンヴァン村 (Hương Văn)	2 食品生産	1	0
5. フォンヴァン村 (Hương Văn)	3 織物	1	1
V フーヴァン県 (H. Phú Vang)		13	12
1. フーホー村 (Phú Hộ)	1 竹製品	1	1
2. フーミー村 (Phú Mỹ)	1 竹製品	2	2
3. フーアン村 (Phú An)	1 竹製品・2食品生産	2	2
4. フーハイ村 (Phú Hải)	2 食品生産	1	1
5. フートゥアン村 (Phú Thuận)	2 食品生産	1	1
6. フーマウ村 (Phú Mậu)	9 紙絵	2	2
7. フーズオン村 (Phú Dương)	4 木工美術品	1	1
8. フートゥオン村 (Phú Thượng)	4 木工美術品	1	0
9. ヴィンタイン村 (Vinh Thanh)	1 竹製品・2食品生産	2	2
VI フォントゥイ県 (H. Hương Thủy)		13	7
1. ツオンホア村 (Dương Hòa)	1 竹製品	3	0
2. トゥイバン村 (Thủy Bằng)	1 竹製品	3	0
3. トゥイチャウ村 (Thủy Châu)	1 竹製品	1	1
4. トゥイフオン村 (Thủy Phương)	1 竹製品	1	1
5. トゥイタイン村 (Thủy Thành)	1 竹製品	5	5
VII フーロック県 (H. Phú Lộc)		8	8
1. ロックヴィン村 (Lộc Vinh)	2 食品生産	1	1
2. ヴィンヒエン村 (Vinh Hiên)	2 食品生産	1	1
3. ロックディエン村 (Lộc Diên)	5 石材加工	1	1
4. ロックティエン村 (Lộc Tiến)	5 石材加工	3	3
5. ロックアン村 (Lộc An)	2 食品生産	1	1
6. ロックトゥイ (Lộc Thủy)	11 植物油精製	1	1
VIII アールオイ県 (H. A Lưới)		9	9
1. アードット村 (A Đốt)	3 織物	2	2
2. アーゾアン村 (A Roàng)	3 織物	3	3
3. ニヤム村 (Nhâm)	1 竹製品・3 織物	4	4
合計		88	69

注) 主要工芸の番号は表2の分類番号に一致する。なお「主要工芸品」の名称は一部省略しており、例えば表2の「3 織物・漁網」は本表では「3 織物」と表記した。

資料: Nguyễn Văn Kham et al. (2007) より筆者作成。

伝統工芸村の空間的な分布を確認すると海岸線から国道1号線やベトナム国鉄（統一鉄道）が縦貫する付近までのおおよそ20kmの範囲にほとんどが分布する（図3）。この範囲は比較的平坦な地形を示し、稲作が中心の農業とラグーンおよび沿岸における漁業が中心の地域である。このほかではフォンディエン県の内陸部に分布がみられ、またラオスとの国境の山岳部に位置するアールオイ県にも伝統工芸村が存在する。アールオイ県は少数民族のタオイ（Tà Ôi）族が多く居住し、タオイ族の工芸品生産がおこなわれる伝統工芸村が分布している。

さて工芸村の現状であるが、2007年のトゥアティエンフエ省人民委員会の調査によると88の工芸村のうち活動状況が良いと答えた工芸村が12、普通が68、悪いもしくは活動停止が8であった（表1）。ここで注目すべきは悪い／活動停止と答えている工芸村のうち5つがアールオイ県に属している点である。その背景については必ずしも十分に明らかにはされていないが、特に経済的な側面、たとえば消費市場へのアクセスの問題が想定できる^{注6)}。また一般的には、経済発展にともなって熟練の伝統工芸の担い手が減少する問題も生じており、工芸村の持続性を高める取り組みが必要となっている。そのため、経営や生産における改善や市場開拓、新しいデザイン採用などを積極的に取り入れる工芸村もみられはじめている。また工芸村内での作業所同士が協力できるように、作業所の集約化を進める工芸村もみられる（Lê Tỵ Dũng, 2007）。

ところでフエ市では、“Festival Huế（フエフェスティバル）”という大規模なイベントを2000年から偶数年に開催している。このイベントは在ベトナムフランス大使館との共催ではじまったものであり、約3万人の外国人観光客を含む約18万人もの来場者（2008年）を誇る一大観光イベントでもあるが、このイベントにおいて積極的に工芸村の紹介を行っている。さらに2005年から“Festival Huế”が開催されない奇数年に“Festival Làng Nghề Huế（フエの工芸村フェスティバル）”という工芸に特化したイベントを開催している^{注7)}。このことからわかる通り工芸村を観光と結び付けようとする動きが、トゥアティエンフエ省においても急速に広がりつつある。

IV. トゥアティエンフエ省の工芸村とルーラルツーリズム—まとめにかえて—

2010年、ベトナムは観光政策がはじまってから50年の節目の年を迎えた。1960年に北ベトナム（ベトナム民主共和国）においてベトナム観光公社が設立された時点の起点としたものであるが、実際にベトナムにおける観光が急激に広がりを見せはじめたのはこの20年ほどのことである。さらにこの10年間は農村開発の一手法としての観光政策の展開がなされてきた。2000年代のベトナム農村開発のスローガンは前述のとおり「近代化」、「工業化」と「持続可能な発展」であり、「近代化」と「持続可能な発展」の下での「観光の発展は農村整備の促進に資する」^{注8)}ものと位置づけられてきた。すなわち農村においては単なる産業としての観光の発展ということのみならず、地域社会の基盤整備にも波及するものとされている。こうした動向のなか、ベトナム農村の観光政策の方向性は、エコツーリズム（Du lịch Sinh thái）の展開とクラフトツーリズム（Du lịch Làng nghề）の展開に大分されてきた。前者はベトナムの豊かな自然環境に依拠した形で比較的早い時期から着目され、研究についてもLê Huy Bá ed. (2006・2009)などがみられる。また2006年に施行された観光法においても定義がなされており、ベトナムでは「農村の観光＝エコツーリズム」の定式が確立した感がある。その一方でクラフトツーリズムについても近年、急速な展開拡大がみられる。

トゥアティエンフエ省においても前述のとおり2005年以降、工芸村への関心が強くなりつつある。それはこれまでの地域文化の「保全」を前提とした関心というよりはむしろ、Nguyễn Văn Kham et al. (2007)も述べるように観光資源としての「利用」に向けた関心である。トゥアティエンフエ省に

おける観光は世界遺産でもある古都フエを中心に展開され、その後、南東部に位置するランコーを中心とするビーチリゾートの発展に力が注がれてきた。しかし近年の動向としては、ラオス国境に近い山間地域における少数民族文化や農林漁業文化、農村工芸をいかに観光に結び付けるかが課題となっており^{注9)}、この点においてはベトナムの全国的な動向と同様である。しかしながら工芸村の観光資源としての利用は、前述したとおりハノイ市近郊を中心とする北部で既に20年近い歴史を有するばかりではなく、ベトナム中部でもダナン市近郊や、世界遺産に指定されているクアンナム省のホイアンの周辺でも、フエに先行する形で展開されてきた。観光を「産業」として考えた場合、トゥアティエンフエ省における工芸村観光に優位性があるのか、マーケティング的な視点からも検討が必要である^{注10)}。

さらに、工芸村や少数民族文化、農林漁業文化の観光利用は、経済的效果だけではなく、多面的な効果にも目を向ける必要がある。トゥアティエンフエ省では *Phát triển Cộng đồng* (Community Development: 地域づくり) や *Du lịch Cộng đồng* (コミュニティツーリズム) が政策においても意識されるようになってきている。その意味では経済面を重視する地域振興的な視点ばかりではなく、コミュニティベースで地域の様々な価値をどのように高めていくかという「地域づくり」的な視点での調査研究の積み重ねが必要である。その際には日本において蓄積がみられる「地域づくり」の研究手法は、今後のベトナムにおける農村研究に重要な示唆を与えることになるであろう。

付記

本稿は平成21年度鳥取大学国際交流基金支援経費（フエ科学大学との学術交流シーズ構築プロジェクト、代表者：筒井一伸）および平成22年度鳥取大学学長経費（ベトナム中部の環境利用に関する地域学部学科横断研究プロジェクト、代表者：筒井一伸）の助成を受けて実施した調査の成果の一部である。調査においてはトゥアティエンフエ省人民委員会をはじめとする関係各位に資料提供、情報提供や現地調査の便宜を図っていただいた。記して謝意を表します。なお本稿のベトナム語タイトル等は、TSUTSUI Kazunobu, Hà Văn Hành, Bùi Thị Thu (2011): “Báo cáo thực trạng làng nghề tỉnh Thừa Thiên Huế, Việt Nam : Nhìn từ triển vọng phát triển du lịch nông thôn”, *Tạp chí Nghiên cứu vùng (Tạp chí của khoa Khoa học vùng, Đại học Tottori)*, 7-3. である。

注

注1) ベトナムにおける村落の成り立ちやその後の変遷は地域的な差異が非常に大きい。そのため、本稿で記した諸概念の定義はベトナムのどの地域にもあてはまるものではなく、特に行政制度には含まれない *thôn*, *xóm*, *ấp* についてはその傾向が強い。

注2) 2005年に設立されたベトナム工芸村協会 (*Hiệp hội làng nghề Việt Nam*) 会長の Vũ Quốc Tuấn 氏への2009年9月26日のインタビュー記事による。出典は “Báo Điện tử Đại biểu Nhân dân” のウェブサイト (http://daibieunhandan.vn/ONA_BDT/NewsPrint.aspx?newsId=85267, 2010年6月18日閲覧) である。

注3) このような動きは日本の農村でもみられ、立川 (2005) によると農村の「生産主義からポスト生産主義への移行」として理解されるとする。

注4) 2010年に行政区域の再編が行われ、フオントゥイ県は県 (*Huyện*) から市 (*Thị xã*) に昇格し、それまでの1町、11行政村から5行政区、7行政村となった。またフエ市でも2007年と2010年に行政区域の再編があり、現在は行政村がすべて行政区となっている。省全体では現在、1省直属市、1市、7県の、32行政区、8

町と 112 行政村となっている。

注 5) Nguyễn Văn Kham et al (2007) によると、ナムドン県ではこの調査時点では工芸村は存在しないが、2006 年より新たな工芸発展政策を推し進めており、2010 年代に新工芸村が設立される予定であるとする。

注 6) 実際、2010 年 11 月のアールオイ県での聞き取り調査においても、販路については明確な回答が得られなかった。

注 7) “Festival Huế”のウェブサイトは <http://www.huefestival.com> である。なお “Festival Huế”および “Festival làng nghề Huế”にはトゥアティエンフエ省以外の省の工芸村も参加している。

注 8) Tổng cục Du lịch (2005): *Báo cáo tóm tắt thành tích 45 năm xây dựng và trưởng thành của Ngành Du lịch Việt Nam* (ベトナム観光分野の建設と成長 45 年間の成果概要報告) による。なお本資料は Tổng cục Du lịch (ベトナム観光総局) のベトナム観光設立 50 周年記念ウェブサイト (<http://50nam.tourism.gov.vn/INDEX.PHP>, 2010 年 4 月 22 日閲覧) において公開されたものである。

注 9) 2008 年 9 月に実施したトゥアティエンフエ省人民委員会文化体育観光局における聞き取り調査による。

注 10) 農村におけるツーリズムのマーケティングの視点について言及した研究としては筒井・澤端 (2010) がある。なおベトナムでは全観光客数のおよそ 18% (2007 年) が海外からの観光客であるため、国際観光を考えた場合も同様に、近隣の東南アジア諸国との比較で優位性を保てるかを検討する必要がある。四谷・八木 (2007) によるとベトナムの観光は、リゾート資源にしても歴史・文化資源にしても、近隣諸国と比べて規模や歴史において他を圧倒するものとはいえず、「観光の看板」としてのインパクトに欠けるとする。

文献

植田憲・朴燦一・宮崎清 (2000) : 地域資源を活用した「ベトナム工芸村」づくり, 『デザイン学研究 研究発表大会概要集』 47 : 410-411.

植田憲・朴燦一・宮崎清 (2001) : 地域資源活用に基づく「ベトナム伝統工芸村」設立計画—内発的発展論を基底とした地域連携に関する基礎的研究 (1), 『デザイン学研究』 48-3 : 77-86.

桜井由躬雄 (1999) : 社会, (所収 桜井由躬雄・桃木至朗編『ベトナムの辞典』同朋舎 : 19-23).

白石昌也 (2000) : 党・国家機構概観, (所収 白石昌也編著『ベトナムの国家機構』明石書店 : 15-52).

立川雅司 (2005) : ポスト生産主義への移行と農村に対する「まなざし」の変容, (所収 日本村落研究会編『消費される農村—ポスト生産主義下の「新たな農村問題」』農山漁村文化協会 : 8-40).

筒井一伸・澤端智良 (2010) : 外国人観光客を対象としたグリーン・ツーリズムの可能性と課題—マーケティング分析の視点から—, 『E-journal GEO』 5-1 : 35-49.

宮沢千尋 (2000) : 農村行政組織と農業合作社, (所収 白石昌也編著『ベトナムの国家機構』明石書店 : 269-293).

四谷晃一・八木 匡 (2007) : 『ベトナム観光産業の発展と現状』同志社大学経済学部ワーキングペーパーNo.31.

Ban Chỉ đạo Tổng điều tra Dân số và Nhà ở Trung ương (2009): *Báo cáo kết quả suy rộng mẫu-- Tổng điều tra dân số và nhà ở ngày 01/4/2009* (2009 年 4 月 1 日人口世帯サンプリング調査推定結果報告書), Ban Chỉ đạo Tổng điều tra Dân số và Nhà ở Trung ương.

Bộ Tài nguyên và Môi trường (2008): *Báo cáo Môi trường Quốc gia 2008-Môi trường Làng nghề Việt nam* (2008 年国家環境報告書—ベトナムにおける工芸村環境), Bộ Tài nguyên và Môi trường.

Bùi Xuân Nhân (2009): “Phát triển du lịch nông thôn ở nước ta hiện nay (今日の我が国におけるルーラルツーリズムの発展)”, *Tạp chí Công sản*, 17 (185): 電子版

(http://www.tapchiconsan.org.vn/details.asp?Object=4&news_ID=14941606, 2010 年 6 月 18 日閲覧).

- Hoàng Văn Châu, Phạm Thị Hồng Yến, Lê Thị Thu Hà (2007): *Làng nghề Du lịch Việt nam* (ベトナムの観光工芸村), Nhà xuất bản Thống kê.
- JICA・MARD (2004): 『ベトナム国地域振興のための地場産業振興計画調査最終報告書: 第1編マスタープラン調査』アルメック・国際開発センター.
- Lê Huy Bá ed. (2006): *Du Lịch Sinh Thái* (エコツーリズム), Nhà xuất bản Khoa học và Kỹ thuật.
- Lê Huy Bá ed. (2009): *Du Lịch Sinh Thái-- Tài bản lần 2* (エコツーリズム: 第2版), Nhà xuất bản Khoa học và Kỹ thuật.
- Lê Tự Dũng (2007): “Một số giải pháp khôi phục, phát triển nghề và làng nghề truyền thống Thừa Thiên Huế (トゥアティエンフエ省の工芸と伝統工芸村の発展および回復に関する若干の解決方法)”, (所収 *Kỷ yếu Hội thảo 320 năm Phú Xuân - Huế* (フースワン-フエ 320年セミナー紀要), UBND thành phố Huế: pp. 152 - 156).
- Lưu Duy Dân (2009): “Sức sống làng nghề truyền thống Việt Nam, tiềm năng và thực trạng (ベトナムにおける伝統工芸村の生命力—潜在能力と実情)”, (所収 *Nghề và làng nghề thủ công truyền thống—tiềm năng và định hướng phát triển* (工芸と伝統工芸村—その潜在能力と発展方法), Ban tổ chức Hội chợ triển lãm Làng nghề Việt Nam 2009 và Ban tổ chức Festival Nghề truyền thống Huế 2009: pp. 18-20).
- Nguyễn Văn Kham, Trần Thị Thục Nhi, Lê Thị Bá Hạnh (2007): *Đề án khôi phục và phát triển làng nghề truyền thống, làng nghề và ngành nghề tiểu thủ công nghiệp trên địa bàn tỉnh Thừa Thiên Huế giai đoạn 2007-2015* (2007-2015年のトゥアティエンフエ省地域での伝統工芸村, 工芸村, 小規模手工業工芸部門の回復と発展に関する提案), Sở Công nghiệp Thừa thiên Huế.
- Phạm Vũ Dũng (2009): “Nghề và làng nghề truyền thống nhìn từ nhiều phía (伝統工芸と伝統工芸村の多方面からの理解)”, (所収 *Nghề và làng nghề thủ công truyền thống—tiềm năng và định hướng phát triển* (工芸と伝統工芸村—その潜在能力と発展方法), Ban tổ chức Hội chợ triển lãm Làng nghề Việt Nam 2009 và Ban tổ chức Festival Nghề truyền thống Huế 2009: pp. 43-49).
- UBND tỉnh Thừa Thiên Huế (2006): *Quy định tạm thời về tiêu chuẩn làng nghề tỉnh Thừa Thiên Huế, Huế* (トゥアティエンフエ省の標準工芸村に関する暫定規定), UBND tỉnh Thừa Thiên Huế.
- Vu Nam (2009): ベトナムにおけるクラフト・ツーリズムと地域開発, 『熊本大学社会文化研究』7: 165-180.

(2011年1月19日受付, 2011年1月31日受理)